

小4

研究主題 伝え合う力を高めるための学習指導の在り方

～国語科における「書く」ことを中心とした学習活動の工夫を通して～

日立市立大みか小学校 大矢 浩一

I はじめに

昨年度、本校では、「話す」「書く」という手段を使って児童が適切に自己表現をし、交流しながら他者理解の力を培い、豊かな人間関係を築いていけるように「伝え合う力」を育てていきたいと考え、研究を深めてきた。

研究の成果としては、児童の意識調査で「話す」「書く」ことへの苦手意識が減り、国語学習への意欲の高まりが見られた。また、平成27年度の学力診断テストを分析したところ、「話す・聞く」領域では、県平均を上回った学年が多く、改善が見られた。しかし、「書く」領域では、ほぼ全ての学年が県平均より若干劣る結果がみられた。このことから、今年度は「書く」活動に焦点化して、様々な文種で目的意識をもちながら書く活動を取り入れ、基礎的な力を伸ばしていきたいと考えた。さらに、書いたことを交流する活動を取り入れることで、相手を理解したり、相手の意見を取り入れて自分の考えを深めたりすることができるように、「伝え合う力」をより高めていきたいと考え、本主題を設定した。

II 研究の仮説

児童の実態に即したモデル（バッドモデル・ベターモデル・グッドモデル）を使い分け、グループやペアでの交流の視点を明確にすることで、「書く力」や「伝え合う力」が身に付くであろう。

III 実践事例

第4学年1組 国語科学習指導案

- 1 単元名 理由や事例を挙げて、お願いやお礼の手紙を書こう
(東京書籍4年下「お願いやお礼の手紙を書こう」)

2 単元の目標

○目的に合わせて内容を考え、依頼状や礼状などの手紙を書こうとする。

(国語への関心・意欲・態度)

○目的や必要に応じて、理由や事例を挙げて書くことができる。

(書くこと)

○相手意識を持ち、敬体などの丁寧な言葉を使って書くことができる。

(書くこと)

○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、3年生の時に、単元「案内の手紙を書こう」において、案内をするときに必要なことを考え、案内の手紙を書くことを学んだ。また、4年生の9月の単元「わたしの考えたこと」において、自分の考えとその理由を明確にし、構成を考えて文章を書くことや、書いた文章を読み返して推敲することを学んできている。意識調査①②③を見ると、文章を書くことを好む児童が多く、手紙を書くときには自分の思いや考えが相手に伝わるように書いていると回答している。また、手紙の書き方については、ほぼ理解していると回答した児童が多い。実態調査①②③を見ると、23人の児童はお礼の手紙を書いたことがあり、お願いの手紙を書いたことがある児童は7人であった。④の案内の手紙を書くときの必要な項目をすべて選べた児童は0人であった。⑥において、実際にお礼の手紙を書いたところ、お礼の気持ちが伝わるように書けた児童は14人であった。書けていなかった内容を見ると、自分が体験した事実の記述に終始した児童が2人、自分の思いの記述に終始した児童が6人、文章のつながりが不十

分な児童が3人だった。

以上のことから、本学級の児童は、感謝の気持ちを伝える言葉を書くことが十分に身に付いていないということがわかる。これは、今までの授業で、目的や必要に応じて理由や事例を書く力が十分に身に付いていないためだと考える。

〈意識調査〉

(平成28年8月10日実施 第4学年1組 25人)

項 目	回 答			
① 文章を書くのが好きですか。	好 き	少し好き	あまり好きではない	きらい
	6人	13人	5人	1人
② 手紙を書くときに、自分の思いや考えが相手に伝わるように書いていますか。	は い	だいたい書いている	あまり書いていない	書いていない
	8人	17人	0人	0人
③ 手紙の書き方がわかりますか。	は い	だいたいわかる	あまりわからない	わからない
	6人	16人	3人	0人

〈実態調査〉

(平成28年8月10日実施 第4学年1組 25人)

国語 問題文	あ る	な い
① 国語の授業以外で、手紙を書いたことがありますか。	23人	2人
② お願いの手紙を書いたことがありますか。	7人	18人
③ お礼の手紙を書いたことがありますか。	23人	2人

国語 問題文	回 答	
④ 案内の手紙を書くときに、必要な項目を選びましょう。	必要な項目を選んでいる	必要な項目を選んでいる
《必要な言葉》		
ア 相手の名前	12人	13人
イ あいさつ	6人	19人
ウ 行事を行う日付	21人	4人
エ 行事を行う時間	23人	2人
オ 行事を行う場所	21人	4人
カ 行事の内容	20人	5人
キ 自分の名前	13人	12人
ク 来て欲しい気持ち	18人	7人
ケ 手紙に書いた日付	9人	16人
⑤ 必要な項目をすべて選んでいる。	選んでいる	選んでいない
	0人	25人
⑥ 一学期に来てくれた市役所の交通安全指導員の方に、お礼の手紙を書きましょう。	お礼の気持ちが伝わるように書いている。	お礼の気持ちが伝わるように書いていない。
《条件》 お礼の気持ちが伝わるように書いている。	14人	・ 事実の羅列になっている 2人 ・ 自分の思いの羅列になっている 6人 ・ 文章のつながりが不十分 3人

(2) 言語活動とその特徴

本単元では、言語活動として「目的に合わせてお願いやお礼の手紙を書く」活動を位置付けた。お願いの手紙は、相手に用件を理解してもらい、行動を起こしてもらえるような記述が求められる。さらに、その記述には、相手の立場になり、お願いをする目的や理由、用件などを整理して書くことが求められる。お礼の手紙では感謝の気持ちが伝わるように丁寧な言葉遣いで書くことが必要になる。したがって、本単元でねらう「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」(B書くことウ)を実現するのにふさわし

い言語活動であると考えた。

(3) 教材観

本教材は、お願いとお礼の両方の手紙が提示され、目的によって内容や形式が変わることを捉えるのに適した教材である。

相手に自分の目的を伝えるためには、手紙を出す目的を明確にし、その目的のためにどのような事柄を伝える必要があるのかを考え、事柄を整理して用件を書かなければならない。また、相手に合わせて丁寧な言葉を用いる必要もある。そして、「前文—本文—末文—後付け」といった一般的な手紙の形式にそって書くことで、書き手にとっては書きやすく、読み手にとっては読みやすくなることに気付くことができ、形式にそって書くことのよさを実感できると考える。

以上のことから、本単元で付けたい力「理由や事例を挙げて書く力」を実現するために適した教材であると考ええる。

(4) 指導観

本単元では、手紙を書く目的を明確にし、目的に合わせて内容を考え、お願いやお礼の手紙を書くことを目標にしている。そこで、学校行事や社会科、総合的な学習の時間でお世話になる方に、お願いやお礼の手紙を書くことを単元の最終目的として位置付けた。そのため、手紙の書き方について取り上げ、手紙の目的や形式、目的に合った内容や文章表現の留意点、推敲についてなど、児童が手紙を作成する際に必要なことを段階をおって丁寧に指導していく。

第1次では、学習の見通しがもてるように、行事を通して教えて頂きたいことのお願いや、教えて頂いたことへのお礼の手紙を書く学習であることを伝え、手紙の形式の相違点について学習する。

第2次では、目的や必要に応じて依頼の内容が伝わるように書くこと、お世話になった出来事などをはっきりさせ、感謝の気持ちが伝わるように書くこと、手紙の形式にそって段落を整えて書くこと、相手に応じた適切な言葉遣いで書くことなどを、児童が意識して学習を進めていけるようにする。また、相手を明確に意識することができるようにするために、名前が書かれている顔写真を見せ、当時を振り返る時間を設定する。清書を行う前の段階では、考えの明確さや書き方の巧みさ等について意見を述べ合う。そして、表書きや後付などを整え、投函するための準備をする。

第3次では、お願いやお礼の手紙を書くときのポイントをまとめ、目的によって書き方が違うことを確認する。さらに他教科との学習とも関連させて、手紙を書くという機会を設定することで、手紙で伝える楽しさを味わわせ、書くことへの意欲につなげられるようにする。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・お世話になった人達に感謝の気持ちを書こうとしている。	・手紙を書く目的を明確にし、必要な事柄を具体的に書いている。 ・相手意識を持ち、敬体などの丁寧な言葉を使って書いている。	・お願いやお礼の手紙を書くために、適切な言葉を用いている。

5 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	主な学習活動	評価規準・(評価方法)
一	1	目的や必要に応じた手紙の相違点を確認し、学習の見通しをもつ。	〔国語への関心・意欲・態度〕 ・目的に合わせて内容を考え、依頼文や礼状等の手紙を書こうとしている。 (観察・振り返りカード)
二	2	お願いの手紙の構成メモを書く。	〔書く能力〕

		・依頼状を書くときの必要な事柄を確かめ、大事なことを落とさずに構成メモを書いている。 (ワークシート・観察・振り返りカード)
	3	大事なことを落とさず、お願いの気持ちが相手に伝わるようにお願いの手紙の下書きを書く。 〔書く能力〕 ・依頼状の形式に沿って、お願いの用件が相手に伝わるように下書きを書いている。 (原稿用紙・観察・振り返りカード) ・相手意識を持ち、敬体などの丁寧な言葉を使って書いている。(原稿用紙)
	4	下書きをもとに、お願いの手紙を清書し、封筒の表書きや後付けを書く。 〔書く能力〕 ・必要な事柄を落とさずに、自分の思いや気持ちを伝えようとしている。 (手紙・封筒・観察・振り返りカード) 〔言語についての知識・理解・技能〕 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (観察・振り返りカード)
	5	お礼の手紙の構成メモを書く。 〔書く能力〕 ・礼状を書くときの必要な事柄を確かめ、感謝の気持ちが伝わるように構成メモを書いている。 (ワークシート・観察・振り返りカード) 〔言語についての知識・理解・技能〕 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (観察・振り返りカード)
	6 本 時	感謝の気持ちが相手に伝わるように、お礼の手紙の下書きを書く。 〔書く能力〕 ・礼状の形式に沿って、感謝の気持ちが相手に伝わるように下書きを書いている。(原稿用紙・観察・振り返りカード) ・相手意識をもち、敬体などの丁寧な言葉を使って書いている。(原稿用紙)
	7	お礼の手紙を清書し、封筒の表書きや後付けを書く。 〔国語への関心・意欲・態度〕 ・目的に合わせて内容を考え、自分の思いや気持ちを伝えようとしている。 (手紙・観察・振り返りカード) 〔言語についての知識・理解・技能〕 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (観察・振り返りカード)
三	8	お願いやお礼の手紙を書くときのポイントをまとめる。 〔書く能力〕 ・目的や必要に応じて、理由や事例の書き方が違うことに気付いている。 (観察・振り返りカード)

6 本時の指導

(1) 目標

○礼状の形式に沿って目的に合わせて内容を考え、感謝の思いが伝わるようにお礼の手紙を書くことができる。

(2) 資料・準備

- ・原稿用紙 ・振り返りカード
- ・掲示資料（学習計画表、お礼の手紙のモデル、本時の学習の流れ、吹き出しボード、お世話になった人の顔写真）

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 ○個への配慮 (評) 評価
1 本時の学習課題をつかむ。 感謝の思いが伝わるようにお礼の手紙を書こう。 《予想される相手》 ・福祉体験でお世話になった人。 ・ボランティアで参加してくれた人。 ・校外学習でお世話になった人。 ・給食で使うゴミ箱を作ってくれた人。 2 お礼の手紙の書き方について確認する。 (1) 前時までの学習を振り返り、お礼の手紙における「大事なこと」を、モデルを用いて確認する。 《大事なこと：6項目》 ・あいさつ文 ・お礼の言葉 ・手紙を書いた日付 ・学校名、学年 ・自分の名前 ・相手の名前 【モデル】 ○森山じよう水場様(御中) 大みか小学校 四年 大矢 浩一 □大みか小学校 □平成二十八年十一月二日 □これからも、お元気でがんばってください。さようなら。 □こんにちは。お元気ですか。大みか小学校の大矢 浩一です。 □先日は、森山じよう水場のしせつを見学させていただき、ありがとうございました。いろいろなことがわかりました。 《感謝を表す具体的内容》 ①わかったこと。 ②うれしいと思ったこと。 ③学習に生かされたこと。 ④これから生かしたいこと。 3 お礼の手紙の下書きを書く。 ○構成メモをもとに、原稿用紙に下書きを書く。 ○文字は200字以上250字以内で書く。	・学習計画表や授業の流れを掲示し、教師が指し示しながら、前時までの流れを確認したり、本時の課題を確かめたりする。 ・お世話になった人の顔写真と名前を見て確認することで、相手意識をもつことができるようにする。 ・お礼の手紙のモデルを提示し、手紙の形式に沿って書かれているか、感謝の気持ちが伝わるかの2点を全体で確認する。 ・モデルには、「大事なこと」6つが落とさずに書いてあることを掲示物で確認する。 ・モデル文を読み上げ、「いろいろなことがわかりました。」の内容では、感謝の思いが相手に伝わらないことに気付かせるようにする。 ・どんな内容を書くと、感謝の思いが伝わるか具体的な内容を考えさせ、吹き出しにまとめ確認する。 ・「感謝の気持ち」を表す言葉には、「ありがとうございました。」を必ず記入し、文末は「です。」「ます。」の丁寧な表現でそえることを押さえる。 ・スムーズに書く活動に移行できるように、原稿用紙は事前に配付しておく。 ○書き始めることが難しい児童には、モデル

【予想される児童の手紙】

□ こんにちは。お元気ですか。大みか
小学校の○○ ○○です。
□ 先日は、アイマスクや車いす体験など
をさせていただきありがとうございました。
体の不自由な人の大変さがわかりま
した。これからは、体の不自由な人を見
かけたら、お手伝いをしたいと思います。
□ これからも、お元気でがんばって
ください。さようなら。
□ □平成二十八年十一月二日
大みか小学校 四年 ○○ ○○
日立市社会福祉協議会
○○○○様

4 グループで交流する。

書き手の感謝の気持ちが伝わるね。

ていねいな言葉を使って書けているね。

話を聞いて、体験してわかったことが
書いてあるね。

◎交流の視点

- ・感謝の気持ちが伝わるか。
- ・形式に沿って書いてあるか。

5 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。

感謝の気持ちを伝える書き方がわか
った。

体験したときの気持ちや、これから
生かすことを書くと感謝の気持ちが伝
わるのがわかった。

文を見て書くように助言する。

- ・書くときの参考になるように、本文の「お
礼の気持ち」の具体例をいくつか提示する。

○早く書き終わった児童には、他のお世話に
なった方へのお礼の手紙を書くよう促す。

(評) 礼状の形式に沿って、感謝の気持ちが
相手に伝わるように手紙を書いている。

(原稿用紙・観察)

(評) 相手意識をもち、敬体などの丁寧な言
葉を使って書いている。(原稿用紙・観察)

- ・交流で参考になる書き方に気付いたとき
には、自分の手紙に取り入れてもよいことを
伝える。

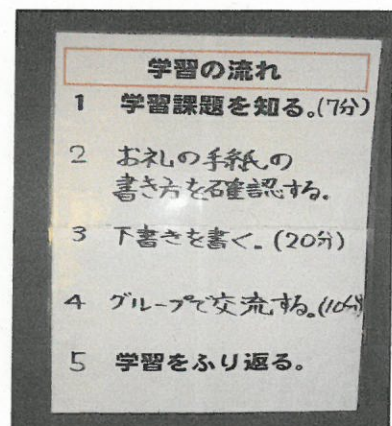
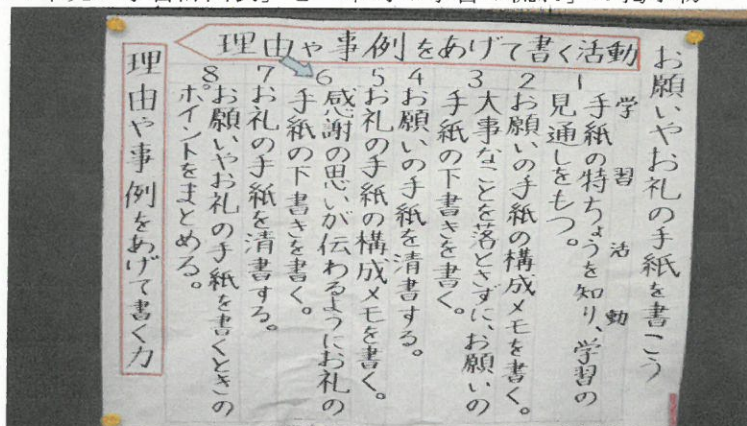
- ・相互評価カードを用いながら「感謝の気持
ちが伝わるか。」や「形式に沿って書いて
あるか。」という視点で読み合うことを確
認し、焦点化して交流することができるよ
うにする。

- ・本時のめあてが達成できたかを振り返りカ
ードに書き込み、よくできていた点を伝え、
次時の学習意欲を高める。

- ・次時は清書をすることを伝える。

IV 指導の実際

(1) 「単元の学習計画表」と「本時の学習の流れ」の掲示物



※ 「単元の学習計画表」は、単元が終わるまで教室に掲示し、常に児童の目に触れられるようにした。本時の学習の流れは毎時間記入して黒板左上に掲示し、時間配分については、児

児童とできる時間を相談しながら決めた。学習の流れが可視化されることで、これからの学習の見通しをもったり、今の学習内容の目的を理解したりすることができた。

(2) 教室の壁面の掲示物の様子



※ 壁面の前側に「単元の学習計画表」を掲示した。中央には、誰に対してお礼の手紙を書くのかの相手意識を高めるために、お世話になった方々の写真を掲示して、写真を見て当時を振り返ることができるようにした。後ろ側には、お願いの手紙の内容に必要な、目的や理由、用件などが適切に書かれている「構成メモ→下書き→清書」の手本の作品を「学習のあしあと」として掲示して、児童が参考にすることができるようにした。

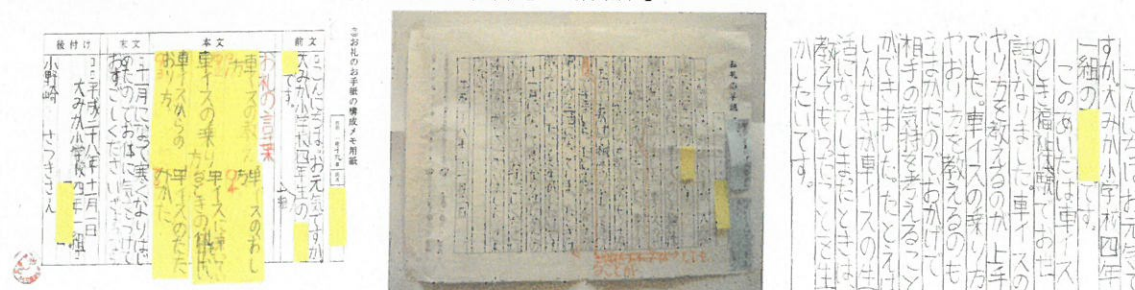
(3) 児童の書いた手紙作品



【お願いの手紙 (左から：構成メモ→下書き→清書)】



【お礼の手紙 (左から：構成メモ→下書き→清書)】



※ お願いの手紙の構成メモの学習で、本文に書きたい内容を付箋にメモ書き程度で書かせる予定であったが、児童達は一文を書いてしまった。その結果、相手に伝えたい内容を書き忘れたり、伝えたい内容がばらばらになってしまったりと、書くことが困難になってしまった。これを反省し、お礼の手紙の構成メモではメモ書きということを強調して取り組ませた。メモ書きにすることで、相手に伝えたい内容を精選したり、伝えたい内容に順位を付けたりすることが簡単にできた。また、構成メモを手紙の形式にしたことで、下書き、清書を形式にしたがって書くことができた。

下書きの学習では、書く文字数を200字以上250字以内にした。字数を制限したことで、自分が伝えたい内容を明確にすることができた。書く文字が少ないと自分の思いを書き切れないし、だらだらと多く書いても焦点がぶれてしまう可能性があると考えたためである。

(4) お礼の手紙の下書き原稿のグループ交流



※ グループやペアで交流する際大切になるのが、交流する視点を明確にすることである。今回、交流の視点を「感謝の気持ちが伝わるか」と「形式に沿って書いてあるか」の2つの項目に絞って行った。交流する際には、良かった点を付箋に書き、後からも振り返ることができるようにした。また、発表のときは良かったところを指し示しながら、グループ全員が目視で確認できるようにした。交流の視点を明確にしたことで、普段は話すことを苦手に行っている児童も活発に交流することができた。

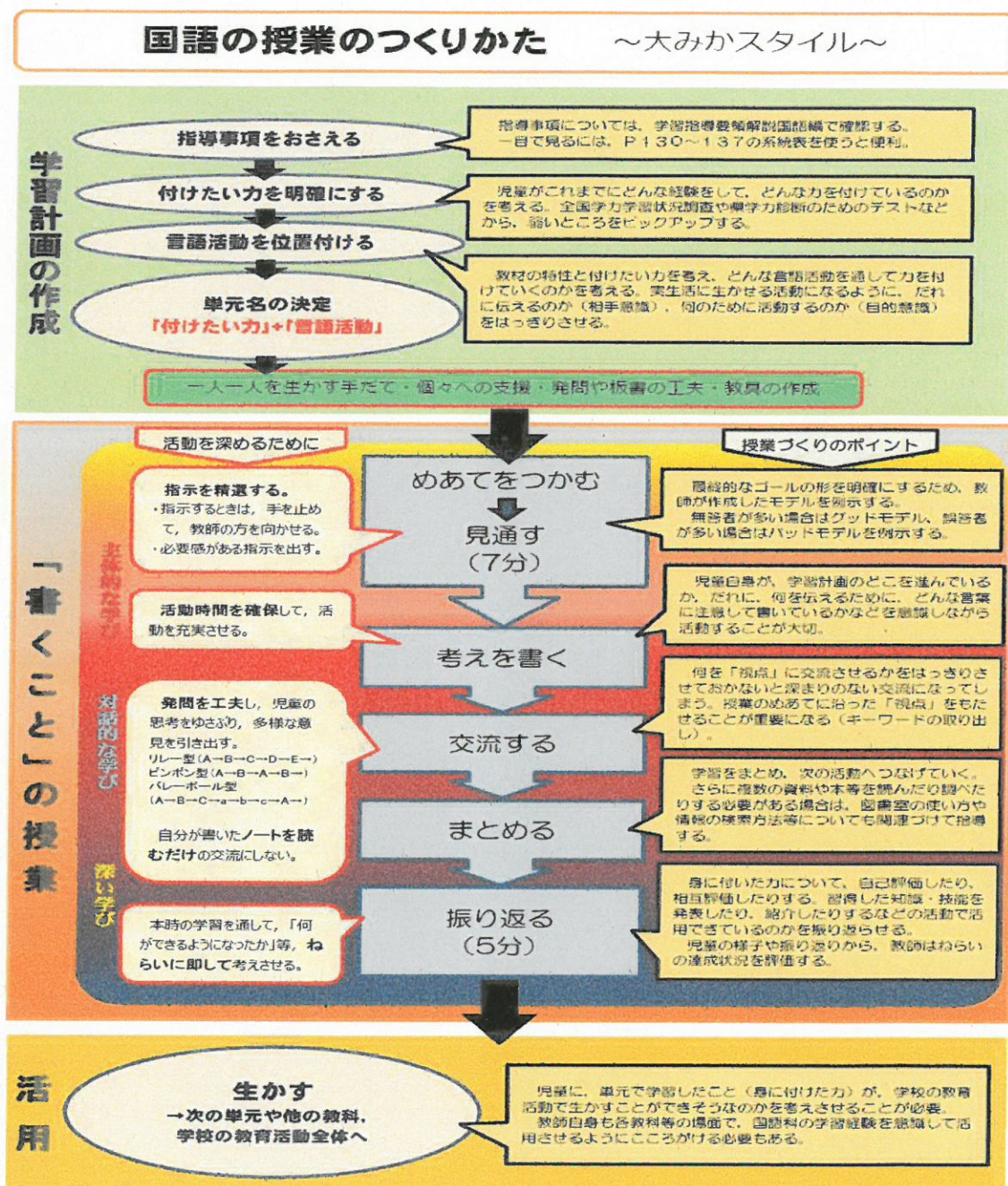
(5) バッドモデル(左)とグッドモデル(右)の例示

□ こんにちは。お元気ですか。大みか 小学校の大矢 浩一です。 □ 先日は、森山じょう水場のしせつを 見学させていただき、ありがとうございました。 いろいろなことがわかりま した。 □ これからも、お元気でがんばって ください。さようなら。 □平成二十八年十一月二日 大みか小学校 四年 大矢 浩一□ 森山じょう水場 ○○○○様(御中)	□ こんにちは。お元気ですか。大みか 小学校の○○ ○○です。 □ 先日は、アイマスクや車いす体験など をさせていただきありがとうございました。 体の不自由な人の大変さがわかりま した。これからは、体の不自由な人を見 かけたら、お手伝いをしたいと思います。 □ これからも、お元気でがんばって ください。さようなら。 □平成二十八年十一月二日 大みか小学校 四年 ○○ ○○□ 日立市社会福祉協議会 ○○○○様
--	--

※ 作文を書くにあたっては、大みかスタイルののっとして、モデルを例示した。誤答者が多い場合にはバッドモデル(資料左)、無答者が多い場合にはグッドモデル(資料右)を拡大して黒板に掲示した。

グッドモデルならどこが良いのか、バッドモデルならどこが悪く、どう修正したら良いのかを全体で確認してから学習に入った。全体で確認することで重要なポイントを確実に押さえ、黒板に拡大掲示することで、児童がいつでも確認しながら学習が進められるようにした。

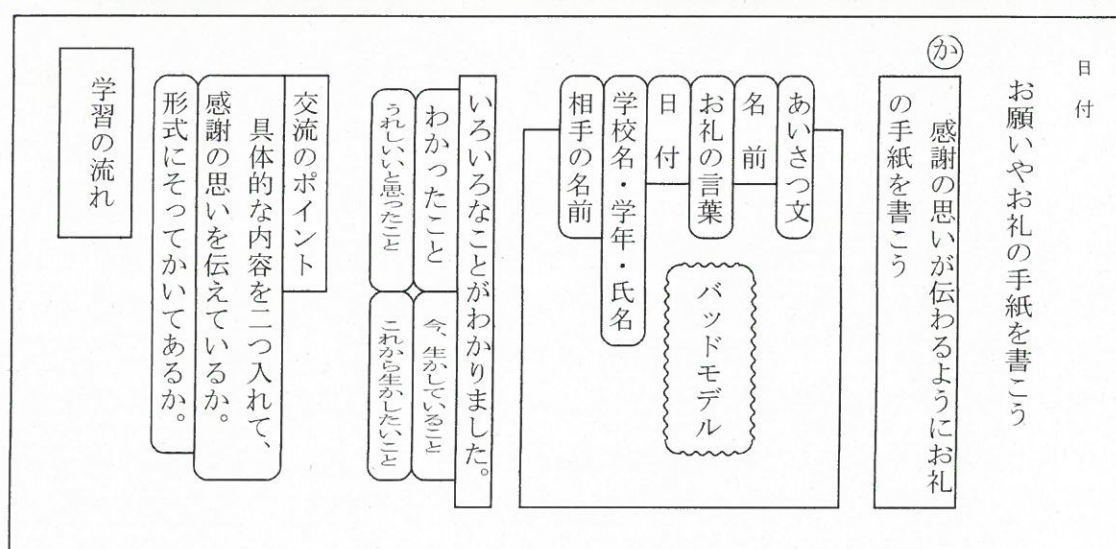
(6) 大みかスタイルについて



大みか小学校で統一して取り組む国語の授業の進め方を「大みかスタイル」として1枚まとめた。「書く活動」であれば、「見通す」「考えを書く」「交流する」「まとめる」「振り返る」の各項目に「活動を深めるために」「授業作りのポイント」を示して、誰もが授業作りに使える資料を目指した。具体的には「見通す」の段階では「活動を深めるために」として指示の精選が、「授業作りのポイント」として「モデルの例示」が示されている。

28年度は全学年で授業研究を行った。大みかスタイルを活用することで、どの職員もポイントを押さえながら、授業を展開することができた。「大みかスタイル」は新学習指導要領でもポイントとなっている「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を押さええて作成しているので、今後も有効に活用していきたい。

(7) 授業後の板書



V 本研究の「書く力」を伸ばし、「伝え合う力」を育てるための工夫・改善の取り組み

(1) 各ブロックごとの「書く」活動におけるスキルの作成



※ 説明的な文章を書くときの学習過程について検討し、構成の仕方など書くときのスキルを低・中・高学年のブロックごとに作成して活用した。

※ 各ブロックごとの実態に応じて、目指す児童像と身に付けさせたい力を設定し、「書くこと」の教科書教材と関連させて、系統表を作成した。

- 11 -

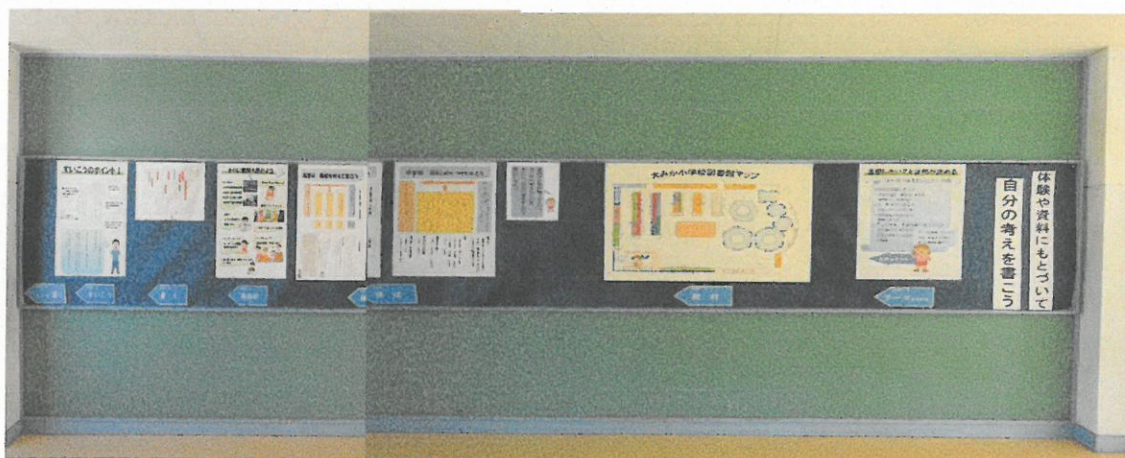
(3) 年間を通しての、短時間での言語活動の設定



※ 朝の会でのスピーチ活動を全学級で取り組んだ。第1学年と第2学年は「気になったこと」を、第3学年から第6学年までは「気になったニュース」を取り上げ、級友の前でスピーチをする活動を継続的に行った。また、毎週水曜日の朝の時間は、「ぐんぐんタイム」として短作文を書き、字数や条件を指定して、短時間で作文を書くことに慣れるようにした。

(4) 校内の環境整備

【テーマを決めて文章を書くためのステップ表】



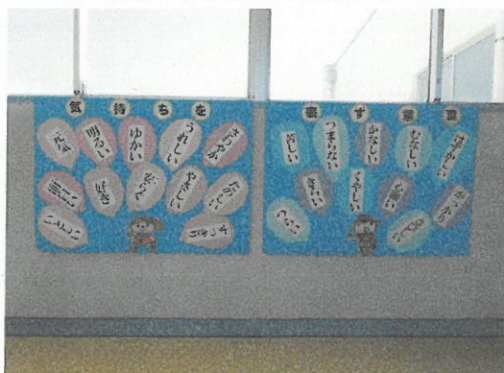
【順序を表す言葉・文と文をつなぐ言葉】

【こそあど言葉】

【国語の学習で使う言葉】



【気持ちを表す言葉】



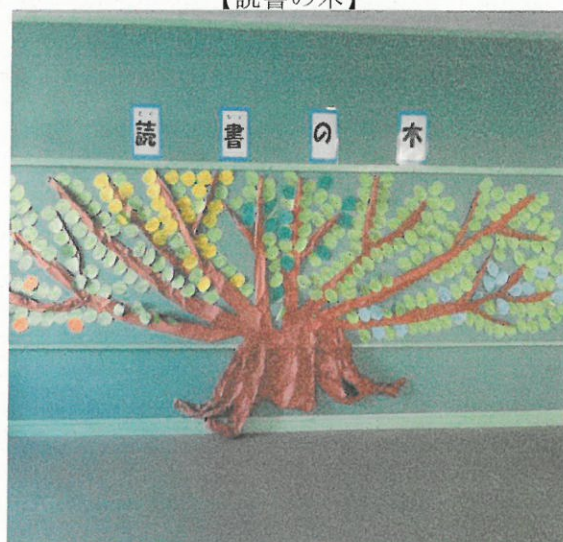
【階段のローマ字学習】



【こころのことば】



【読書の木】



※ 校内の廊下や階段には、「作文の書き方」「文章構成」「文章表現」が分かる掲示物を作成して掲示した。また、児童の作文や日記、俳句などの児童の作品を年間を通して掲示できるようにした。さらに、読書の推進を図るために、「読書の木」や「図書館の見取り図」などを掲示した。

VI 研究の成果

- (1) 児童の書くことへの興味や関心が高まり、苦手意識をもっていた児童も意欲的に活動する姿が多く見られるようになった。
- (2) 児童達は手紙の形式を理解し、自分が伝えたいことを、理由や事例を挙げて書くことができるようになった。
- (3) 視点をもって交流することで、自分の良さや相手の良さに気付くことができるようになり、伝え合う力が向上してきた。
- (4) 「学習能力系統表」「大みかスタイル」の作成により、「書くこと」の指導事項や指導過程が明確になり、教師自身が見通しをもって学習指導に取り組むことができるようになった。

VII 今後の課題

- (1) 単元で身に付けた力の活用。
- (2) 説明文や報告文の指導法の改善。